

5月7日(金)の奈良新聞に

青翔高校「科学の甲子園」全国大会出場特集が掲載されました!



「天井は高い」だから頑張れる

県立青翔高『科学の甲子園』全国大会初出場

仲間をみつけ、さらなる高みへ



泣顔もハグに今後の抱負を誓う生徒。右から駒井君、家森君、阿部君、山本君、西岡君。

科学の甲子園出場 生徒座談会

「全国大会出場し感想は？」
阿部 昨年の県大会で1位になって良かったけど、聞かされた伊予の学校がすごかった。伊予の学校は、自分たちよりもレベルが高かった。自分たちも、自分たちのレベルを上げていきたい。

「科学の甲子園」は、国立研究開発法人科学技術振興機構主催で、今年で10回目の開催。高校1年生、2年生のチームが筆記競技、実技競技3種目の総合成績で争う。理科・数学・情報における複数分野の拡大とトップ層のレベルの引上げを目指す。今年には606校・7,168人のエントリーがあり、各都道府県から1校が選出された。今年が京都府立洛北高等学校が全国優勝を果たした。初出場の青翔高は31位だった。

「科学の甲子園」全国大会への出場は、本校にとって大きな刺激になった。生徒も、自分たちのレベルを上げていきたい。自分たちのレベルを上げていきたい。



世界が君たちを待つ
顧問 木南 俊亮 教諭

ロケーション能力を磨いて、世界を相手に戦う。自分たちのレベルを上げていきたい。自分たちのレベルを上げていきたい。



科学の甲子園(全国大会)に出場する生徒

阿部 自分磨ける人見つけ
家森 レベル差がモチベーション
駒井 難問出会い楽しさ感じ
西岡 できないことない実感
山本 優勝校の差は準備の差

「科学の甲子園」は、国立研究開発法人科学技術振興機構主催で、今年で10回目の開催。高校1年生、2年生のチームが筆記競技、実技競技3種目の総合成績で争う。理科・数学・情報における複数分野の拡大とトップ層のレベルの引上げを目指す。今年には606校・7,168人のエントリーがあり、各都道府県から1校が選出された。今年が京都府立洛北高等学校が全国優勝を果たした。初出場の青翔高は31位だった。



科学を楽しく学習する生徒

「科学の甲子園」全国大会への出場は、本校にとって大きな刺激になった。生徒も、自分たちのレベルを上げていきたい。自分たちのレベルを上げていきたい。

「科学の甲子園」は、国立研究開発法人科学技術振興機構主催で、今年で10回目の開催。高校1年生、2年生のチームが筆記競技、実技競技3種目の総合成績で争う。理科・数学・情報における複数分野の拡大とトップ層のレベルの引上げを目指す。今年には606校・7,168人のエントリーがあり、各都道府県から1校が選出された。今年が京都府立洛北高等学校が全国優勝を果たした。初出場の青翔高は31位だった。